第２回福島駅周辺まちづくり検討会　会議録

１　日　時　　令和６年２月２８日（水）　１３：３０～１５：３０

２　場　所　　コラッセふくしま　３階　企画展示室

３　出席者　　委員１１名
小林　敬一　委員長、西田奈保子　副委員長
坪井　大雄　委員、　大和田　諒　委員、　追分　拓哉　委員、　紙谷　瑞恵　委員、
中野　義久　委員、　宍戸　路枝　委員、　鈴木　深雪　委員、　石川　文雄　委員、
瓶子　莉奈　委員

４　欠席者　　委員１名
江川　純子　委員

５　内　容
（１）市長あいさつ
（２）議事
〇第１回検討会の主な意見等について
〇議論を進めるうえでの留意点と論点（案）について
（３）意見交換
（４）その他

６　概　要　　議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

７．会議詳細
（１）市長あいさつ
本日はお忙しい中お集まりいただき感謝。
事務局として前回のご意見などを項目ごとに整理させていただいた。
前回、たたき台としてＡ案の劇場ホール案と、Ｂ案のコンベンションホール案を示したが、委員の皆様からいろいろと追加説明の要請があったため、現実に使うとなったらどんなイメージになるのかということ、今使われている他の施設状況などをピックアップして、皆様のイメージが膨らむように、資料を提示したいと思っている。
前回、稼働率についての話があった。改めて我々も調査などはしていないので、現在、精緻な稼働率の推測ができないが、福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画に基づいて推計した場合と、全国的な施設の利用状況から推計した場合の稼働率の２パターンを示して、皆様にどんな感じかを理解していただければ良いかなと思う。その上で、今後さらにどのようにまちづくりを考えていくかという議論を深めていただきたい。
議論の前に、議論を進めていくうえで押さえておいていただきたいポイントについての資料を提示

させていただく。その上で主な論点を整理し、その論点に沿って皆様に議論を深めていただきたい。
本日は活発な議論とご意見をお願いしたい。

（２）議事
〇第１回検討会の主な意見等について
事務局で資料１－１、資料１－２、資料１－３を説明後、質疑応答

質問なし

事務局で資料２を説明後、質疑応答

＜意見交換＞
委員長
事務局から議論を進めるうえでの留意点、前提条件として挙げられるものだと思うが、こういったところで良いかとの問いかけがあったので皆様のご意見や質問があればご発言ください。

委　員
前回の検討会の効果が非常にあって、新聞やテレビを見た方がわざわざ電話をしてきた。
若者の街にするにはどうしたら良いのか、年寄り・高齢者はたくさんお金を持っているのだから、それをどう活用すれば良いのかとか。こういうふうに、こうすれば良いのではないか、と非常に効果があった。やはり周知徹底することは非常に大切だと思う。やはり市民全一致の協力のもとにやっていくという形だと思う。
前回提示された２案のうちＢ案は、今までのような既存の劇場型ではなくて、全ての中で応用できて、ニーズに対応できるのでやはりＢ案が良いと思う。
これから事業をやっていく、そして人が集まると、あとは運営の問題だと思う。どうやって営業活動やアピールをしていくのか、その辺に尽きるのではないかなと思う。

委員長
街の反応があったということ、それは大きなことかと思う。

委　員
質問です。
論点のところで、大きく３つに分けられて論点の案を示しているが、この検討会としては、いつまでに何を目指せば良いのか。早く意見を取りまとめないといけないことは何で、少し時間があるものは何かとか、その辺りのことを最初に教えていただきたい。

市　長
実はそれ自体がある意味では、検討会の皆さんのご意見を聞きたいところ。
我々とすれば、いつまでという明確な目標は今のところ現時点で持ってない。

ただ、再開発の方はかなり事業の採算性との関係があり、やはり急がなければいけないだろうということを、我々としては、留意点として提示させていただいた。そこをぜひ委員の皆さんにも共通認識を持っていただいて、議論を進めていただければとありがたいと思う。

前回の検討会では、スピード感よりはしっかりと検討すべきという委員の方もいた。それはそれで、駅東西全体としてはあり得るかもしれないが、東の方は、やはりこういった現実的な事業の成否や経営面も関わってくるので、東口再開発も急ぐという前提で組合にも議論いただいている。我々とすれば、皆様の合意が早くとれるようであれば次のステップに移りたいと思っている。

前回もお示したが、今回のこの計画見直しによって、最低１年は供用開始が遅れ、当初計画から２年遅れる形になる。この１年遅れというのは、簡単に言えば、現時点でおおよそ見直し案が決まって、設計変更に着手した場合に１年遅れることになるので、今後半年遅れれば、１年遅れが１年半遅れる、というスケジュールのイメージをご承知おきいただきたいと思う。

西口或いは東西一体化に関しても、西の方は非常に不透明。これは何といっても市の持ち物ではなくて、不動産業者の方の持ち物なので、今いろいろとアプローチをしているが、所有者も方針を検討しているところで、検討結果は市にお知らせしますと、お話をいただいているが、急転直下動くかもしれない。その場合に、市が所有者にアプローチする上でも、材料を持っていなければならないということでは急ぐ面でもあるが、やはり西の方は新たな視点なので時間をかけなければいけない部分もあると思う。

東西一体、特につなぐ機能に関して言えば、今は拠点の関係が大事だと思うので、多少は時間的な猶予はあるかなと考えている。

委員長

それでは、前半、留意点を前提にして、論点に沿いながら、委員のみなさんからご意見をいただきたい。今ほど時間の感覚について委員から質問があり、市長さんに答えていただきましたが、基本的に前回の議論であったが、当初の計画がすでにスタートして再開発に取りかかったところで、途中で今見直しが入ったという状況で我々議論している。かつ、当初の計画は今日参考資料のところにあるように、非常に密に議論され、計画立てられていたが、昨今の物価上昇等があって立ちいかなくなった。そのような状況の中で、限られた時間の中で、良い着地点を見いださなければいけないという、課題は抱えている。

見直し案のＡ案・Ｂ案とも、多少の席数の減少とか面積の減少とか抱えていて、当初の見込みとしたシナリオで成り立たない部分も当然出てくるが、今ここで大いに議論して、成り立たない部分を補って余りあるほど効果があるもの、市民にとって、中心市街地にとって、駅周辺市街地にとって、実りあるものとなるように、議論をしたいと思っているので、いろんな知恵を拝借したい。

今日は、当初の計画案もご説明いただきましたし、それの見直しに関して、今日は、前回それに対して、どんな観点からもう少し議論したら良いのかとか委員それぞれの視点をご意見いただいたわけです。

それが今日の資料１ページ目にある、主な意見等のところ。皆さんからいろいろな意見が出ており、例えば、駅前からどう繋がるか、それは見え方にも関係するのではないかとか、商店街の連続性がなくなるのは惜しいこと、でもそれに関しては、今日、資料修正されておりましたけども、駐車場の１階部分は商店が張りつくわけで、そういう点で計画されて、いかに人の流れがつくれるか、人をいか

に集められるかという点に関しては、今後、駅前とはいえども、他にもいろいろな交通手段があり、例えば自転車などのアクセシビリティはどうなのか、といったような意見も出された。

実際の利用者、利用者層と街との関係はどうなのか、これに関しては今日特に、もう少しソフトに踏み込んで、事務局の資料に基づいて、皆さんのもっとアイデアを出していただけたらと思う。

地域が使いこなせるかどうかという観点もあったかと思うが、そのような観点からいろいろなご意見が出されて、今日に至っているということだと思う。

まずは東口再開発について、皆さんのご意見をいただきたい。前回の発言にさらに加えるものであるとか、今日はソフト、或いは実際の稼働率の見積もりなど事務局から提示されたが、こういったものを受けて、どう考えるか、ご意見がある方はご発言願う。

委　員

昨年、既存の施設を活用して、全国規模の大きな大会が開催され、全国から来福された方々から高評価を得たとの報告がある。あらためて福島市は、来訪した方々に満足していただけるポテンシャルを持った都市であると実感した。だからこそ、イベントや大会を招致する際の新たな核となる東口の再開発が遅れていることは、いくつかのチャンスを失っているのではとの危機感がある。もちろん地権者の方々、市民の皆様のためにもスピード感をもって進めていかなくてはならないと思う。

多くの委員がＢ案を推されているが私も同意見である。劇場ホールは音楽堂、パルセいいざか、県文化センター等既存施設があるので、東口はコンベンションホールを中心とした施設が必要であると思う。

特に本日提示のＢ案では駅前通りや商店街との面的な繋がりも期待でき、イベントや大会招致ばかりでなく、市民の皆様が使用するにも、様々な使用パターンを考えられるものになっており、完成後の利用状況がイメージしやすいと思う。

委　員

２，３日前に、福島市の文化振興審議会という会議があった。その会議の場でも、やはり東口再開発のことが話題になった。

とにかく集客をするための拠点が今ないので、ぜひ東口の新しい施設には拠点を作って欲しいという意見が出された。

福島には、まだまだ知られていない文化、観光地がたくさんあるが、観光客が来られた時、どこに行けば福島のことを全部見渡して聞くことができるか、それなりに発信はしているが、全体をつなぐ、観光客の方がそういう理解をすることができるところが東口にはない。ぜひ東口の拠点施設の中に、昔で言う観光案内所のもっと新しい形の、福島のいろいろなことを知ることができる、そういう施設を作ったらどうなのかという意見があった。

今だとインフルエンサーの方は、いろいろな私たちの知らないようなところを発信している。どうしてこんなところに人がいっぱい来るのだろうか、ということが起こっている。福島の吾妻の五葉松というのが今話題になっている話も聞きました。本当に知らないことが多い。

福島の文化や観光地などを１ヶ所で分かることができる拠点があればたくさん人が来たときに便利だと思う。

委　員

先ほどの市長のお答えによれば、建設計画自体が遅れると、１年、１年半というように、さらにオープンが伸びていってしまうという考え方で良いか。

そうであれば、まちづくりの観点からこれ以上遅れてはいけないと思う。期限を切る、ということもあっても良い気がする。

日本一のコンベンションホールを作るということはすごく良いと思うが、コンベンションホール自体はただの箱でしかなくて、中でやるコンテンツが何よりも大切。当然コンベンション機能なので普段使いの展示会とか、いろいろ催しがあるかと思うが、福島市が全国、世界に誇れて発信できるようなイベントを同時に考えていくことも今のうちからやるべき。

再開発とは関係ないが、まちづくりの観点でいうと、大学や専門学校などの誘致をしていただきたい。若者がまちに溢れる状況をつくれると思う。

委　員

資料１－１の部分で話をさせていただくと、やはりＢ案のコンベンションホールを中心とした形だと考える。イベント等展示ホールがあって、多目的な形で使用ができる。

先ほどの資料にもあったが、やはり民間企業の投資意欲自体が低下しているという点で、そういった意味でもいろいろな施設の用途、使われ方があることは、非常にプラスになると考える。

特色あるもの、魅力あるものといったところは、地域文化の取り入れが必要不可欠。我々も団体として祭り等に関わることがあるが、実際福島の祭りについて詳しくわかる方がそんなにいない印象が正直ある。

もう一点、イノベーションやテクノロジーといった考え方、何かしら新しいテクノロジーの部分を導入していくことがベスト。

委　員

質問です。

コンベンションのコンセプトとして、「多様な交流・にぎわいを創出するふくまコンベンション」、これは、施設のコンセプトというか。

市　長

これまでの計画の基本になっている。

委　員

施設だけではなくて、このコンセプトを街なか全体に広げてもいいのかなと思う。今ほど、地域のものをもっと取り入れてという案もあったが、「福島は思い切った特色がない」、「特色がないのが特色」と思う。無いからこそ新しいものを取り入れやすい。

例えば、街コス、コスプレのイベントを街なかでやっているが、すごいクオリティの高いコスプレイヤーがたくさん、いろいろ集まるが、逆に仙台市内の人で賑わっているところではできないイベントだと思う。

人が少ないからこそできるイベントを誘致できるチャンスかなと思う。ものすごくコアな部分、マ

ニアックな部分は全国から人が集まってくると思う。
　例えば、日産のＧＴ―Ｒだけが集まる、「Ｒミーティング」というイベントがあるが、１万人規模で人が来る。本当にコアなとかマニアックなというイベントを誘致できれば、すごく賑わってくるのではないか。
　昨年初めて開催されたふくしまシティハーフマラソンでは、県外から参加が多くあった。駅前がスタート・ゴールだとすごく来やすい。新幹線を降りてすぐスタートして、ゴールしたら電車に乗って飯坂温泉に行ってみようかという流れも作れるのではないか。
　基本的なものは先ほど出たが、2026 年には県立美術館でゴッホ展が開催されるので、その時にぜひ駅前が賑わっていたらうれしい。

市　長
　若干の補足説明を。
　期限の関係だが、我々が期限を切って、皆さんにこの場で結論付けてくださいというのは大変失礼な話。急ぐところは急ぐが、議論の進展を踏まえて一定の時期は提示したいと考えている。
　大学・専門学校の誘致の話があった。福島の街がなぜ寂れたかと言えば、大学が街なかから郊外に出ていったのが一番大きい。その反省に立って今、医大は、市が寄付をいただいた用地を県に提供して、教職員、学生あわせて常時 700 人位は入る施設ができた。
　市でも、いろいろな店舗などの誘致や出店の支援をしている。これまでに累計で 111 件の店舗或いはオフィスが出来ているが、そのなかで専門学校の誘致にも取り組んでいる。その誘致の１回目が「ハリウッドスタジオ」で、まちなか広場隣のランプ 120 最上階でやっている。福島は他の同規模の街に比べると専門学校が少ないと思っているので、誘致に力を入れていきたい。
　先程、福島って自慢できるものがあまりないというお話も一部あった。私いろいろ県外をたくさん歩いてきているが、福島ほど非常にドメスティックな視点の街はあんまりない気がする。要するに全然ＰＲしてない。わらじまつりをリニューアルして、東北絆まつりでやっているが、反響としては東北一の祭りと言われる、ねぶた祭にも負けてないくらいの喝采をいただいている。
　何が問題だったかというと、福島市はこれまで外にアピールすることをやってきてない。結局は、わらじまつりにしても何するにしても、街なかの人が、福島の市民が楽しむだけの仕掛けしかしてない。よそから人を呼んでない。
　去年のわらじまつりから初めて観覧席を作って、有料にして、それでよそから人を呼べるようにした。今年はもう完全に予算でやります。ちなみに他のお祭りであれば、道路の片側１車線を平気でつぶして観覧席を置いて有料席にする。そのようなことが福島は全然できてない。
　スポンサーの皆さんに招待券も渡すが、全部身内ばかりで市外の人に招待券が行っていない。そのため市外の人が、福島の良いものとか分かりようがない。どちらかというと、これが一番問題。
　シティマラソンに評価をいただき感謝。
　単なるシティハーフマラソンだけではやはり弱いが、我々にはわらじまつりがあり、羽黒神社は健脚の神様。健脚というものを、いろいろな祭りやら、或いはパークランニングとか、福男福女競争とか、そういったものと結びつけて、打ち出していけば、かなりの魅力にはなってくるだろう。
　これまでの取り組み方が、よそにアピールするという取り組み方をしてなかったというのが、非常に問題で、重点的にこれから展開していかなければいけない。

委員長

施設ができると同時に、そのような戦略、ソフト部分での市民一体となった盛り上げ方というのを考えていくべき。或いはそう期待していきたい。

意見交換の最初に、東口の施設について伺っているが、前回、第１回目に皆さん多くの方が、Ｂ案が良いと発言していたが、基本的にはＢ案が持っているフレキシビリティを高く評価されたのだと思う。

フレキシビリティというのは、活動内容におけるフレキシビリティ、活動規模におけるフレキシビリティ、ソフト内容の多様さにおけるフレキシビリティ、利用者層における多様性というフレキシビリティ、その辺りを高く評価されたのだと思う。

もう少し具体的に、こういうことならこういうところに取り組んでいけるのではないかとか、そういった具体案をいろいろ出していただいて、それがまちづくりとどう関係していくのかというところも、アイデア等があればお知らせいただきたい。

先ほど少し触れたが、当初計画より規模が小さくなったことによって、これまで興行利用が主体に考えられていたものも、市民利用の部分がむしろ多くなるか大きくなる可能性もある。それだけ地元で盛り上げなければいけないし、逆に地元に返ってくるものが大きいかもしれない。それは一体何かその辺りもご配慮のうえご意見をいただきたい。例えば、Ｂ案ならもっとこういうことを生かせるのではないかとか、こういう波及効果が期待できるのではないかとか。

もう１つ、内容に関しては事務局が提示した資料の中に、どうマネジメントしていくかということに関して、特別な工夫がされていると思う。全く業者任せではないというところ、その点は大事で、そういう仕組みの上でこういったものをどううまく展開できるのかといったところを、お考えいただきたい。

もう１点、まだ議論してないのは、パフォーマンス、性能の問題。どの規模でどう施設を作ってどういうことをするのか、というところまで議論が進むと、今度はその施設の利用者や訪れた人、通りかかった人がどう感じられるような空間を作ったらいいのか、或いはどういうイベントをやったらいいのかとか、そういった主体側に立ってもう少しそのパフォーマンスのところをリアルに理解できたらと思う、マチニワのように。今日議論しているものと規模が少し違うが、パフォーマンスとしては、誰もが立ち寄れて、誰もがいろいろな人と出会えて、誰もが使える、といったようなところがあったかと思う。

今回の施設に関しましても、今日、具体的なイメージ、Ａ案・Ｂ案等も出ているが、もう少し肉付けするようなところがあればご発言いただきたい。

委　員

１つの提案として。

私、去年のわらじまつりの、実行委員会の方で、舞座組という踊りの座長をさせていただいた。市内の小学校や中学校に踊りの授業でお邪魔したり、福島のわらじまつりを少しでも知っていただく活動をしている。その他に、市長と一緒に絆まつりも参加させていただいた。先ほど市長が発言されたように、わらじまつりの反響とか魅力というのはとても良いものになっていると感じている。観客の皆さんからも「楽しめたよ」という言葉をすごく頂くようになってきている。魅力の発信の仕方はわらじまつり実行委員会がやっていかなければいけないところだと思う。

その中で、駅前というところに、わらじまつりに触れられるような、体験できるようなところというのがあったら、より魅力が発信できるのではないかなというふうに思う。

わらじ踊りの授業をやっていると、皆さんやはり「体験するとすごく楽しい」と言われるので、わらじの展示だけではなくて、例えば、わらじ踊りのときに使う藁（わら）の輪を作る、体験できる空間や、わらじ踊りを体験できる空間というところがあれば、通りかかってそういう体験をしたときに、祭りに来てみたいなという発想になって、また来ていただけるという形になれば、集客というところに繋がるのではないかなと思う。

委 員

全体の東口の開発を見ると、問題点は２つだと思う。

例えば今、商業のＡ棟・Ｂ棟・Ｃ棟で大きく見た場合、Ｃ棟の場合は、地権者さんと、駐車場、その後ろにマンションという形で、これは問題ないと思う。

基本的に事業全体を見た場合、一番今問題なのは商業ビルのコスト・お金の問題。

そのために、今回福島市の基本的な公共施設をもって、コンベンションなり何なりで人を集めて、集客力があるということが、今度逆に再開発の人達の協力になると思う。だからこの議論は非常に大切な議論。

私は前回、ダウンサイジングプラス特色あるものをと発言した。特色とは何かと、ずっと２週間考えていたが、非常に難しい問題。ハードでいろいろするのか、デザインにするのか、それともソフトで運営するのか。そういう点で、もっともっとこの辺の議論は必要ではないかと思う。

先ほど他の委員も発言されたように、やはりスピードが必要。

このまま何年もこの状況であれば、北側の商店街、飲食街が壊滅してしまう。

私はやはりスピード、そして同時並行で運営の仕方とかやり方に対しては、皆さんの意見を聞きながら、成功していけばよろしいのではないか。

少し雑駁（ざっぱく）で申し訳ありませんが、今回の計画見直し、分離したこと、低層にしたこと、コンパクトにしたことによって、成功の比率が高まったと思う。

特に当初の計画まま見切り発車したりすると、必ず子孫・後継者に大変な損害を与えるところだった。非常に今回のこの計画見直しは、すばらしいと思うので、成功させるという気持ち。

委員長

急ぐという点では、私も急いでいる。事務局と一緒に、このような密度で、このようなペースで議論した都市計画の記憶はありませんので。

今、集客力というポイントを出していただいたこと大変大事なことだと思う。集客力という点では稼働率というのも１つ大事。

もう１つは、施設を作る・企画するという場合、相手の規模、お客さんの規模ばかり我々考える。本当はこちら側、関わっている人がどれだけ多いかということも、本当はまちづくりにとっては大事な要素だと思う。そういう点で、受ける側作る側一体となって、事業を盛り立てていくという観点も大事かと思う。

委 員

ここまでのところで、経済的な視点に関係するが、外からの集客という視点がかなり出てきていたのかなと思いながらお聞きしていた。その中で、委員長から、こちら側、関わっている人をという視点も出てきたわけだが、今の流れの中で敢えて申し上げたい。

施設のコンセプトとして、「多様な交流・にぎわいを創出する」とあるが、これが経済効果だとか、消費行動だとか、そういうことだけではなくて、多様な交流・にぎわいの創出が何のために必要か、という根本的なところを共有できた方が良いのではないかなと思っている。その理由は、やはり駅前の位置付けというのは、人によって異なると思うから。

そうすると、この駅前に投資していく理由、これについて広域的価値というところを言語化して説明していく必要があるのではないか。

「多様な交流・にぎわい」は何のために必要だというふうに私たちが考えているのか、そこのところをうまく説明できないと、なぜ駅前に財政調整基金も尽きそうな中で、このように投資していくのかというところを市民にご納得いただけない可能性もあるかもしれないと思う。そこのところを私たちがどう説明していけば良いのでしょうかという、そういう問いかけをさせていただきたいと思う。

委員長

今ほど、問いかけということなので、我々、それを受けとめて、それぞれにお考えいただいていけたらと思う。そもそもなぜ「にぎわい・交流」というのが駅前に必要なのか、本当にその意味は何かという、根本的なところの問題提起かと受けとめさせていただいた。

東口に関して、前回にさらに付け加えることがあればご発言いただきたい。

委 員

東口に関しては、私自身もＡ案・Ｂ案だったら、Ｂ案のコンベンションの方が良いかなと思っている。

理由は先ほど委員長が発言されたように、いろんな使い方ができるという、フレキシビリティというところがＢ案のコンベンションホールの方が多いかなと思うから。

福島市の魅力をどう外に発信していくのかが大事という発言があったが、福島市は幹線道路が整備されているので、地域間交通が強みかなと思う。

そのため、電車に乗って市外とか県外から来た人が福島に来たなと感じられるようなコンテンツが公共施設の中に作られたら良いかなと思う。

具体的なこととしては、先ほどのわらじまつりの展示や体験とか。個人的には福島の食も好きなので、果物とか円盤餃子とかも食べられるような場所があったら良いなと思っている。

コンベンション施設というのはすごく大事だと思っているし、会議や学会などの参加者は消費額が大きいと考えるが、コンベンション施設とだけ聞くと、学生とかは自分とはあまり関係ないことかなとか、日常使いできない場所なのかな、というイメージがあると思う。そのため、市民にとって開放的な場所であって、日常使いもできる、気軽にふらっと立ち寄れるような場所という機能もあったら良いなと思う。

委員長

いろいろな人が、まずは立ち寄ってみる人もいれば、そこに参加してみる人もいれば、いろいろな方がいて、そしてその場が盛り上がっていくということが大事かと思う。

委　員

全体の中で話を聞いた中での感想というところがあるが、前回の検討会以降、東口、福島市周辺、かなりいろいろな撤退とか、寂しくなっているねという報道もあるので、なぜそうなっているのかということで、いろいろと私の周りでの話を聞いたり、社内でもいろんな方とお付き合いで話したりする中で、やはり街の回遊性がだんだんなくなってきていると思う。

実際どこに行けば何があるとか、駅周辺も自由通路があるが地下にあって、どこ行ったらどういうふうに行き着くとか、このビル（コラッセ）自体もそうだが、福島駅の北側にあって、ここにこういう機能があったと知らなかったという人もいたりして非常に分散している。その中で、回遊性というのは 1 つのキーワードだなと思う。

私もいろいろなところで自由通路や街周辺の開発に携わっているなかでやはりキーワードで出てくるのは回遊性。そこでいろんな動きや流れとかが出てくるというのはあるなと思う。それらを振り返りながら、今回参加させていただいたというところがある。

先ほど委員の方から発言があったが、広域的価値、なぜ今回のような議論をしなければいけないのかという理由やまちづくりとしての価値、今回のような検討をする理由は何かというところで、福島市さんの計画も勉強させていただいた。

立地適正化計画を平成 31 年に策定して、令和 22 年目標に比較的コンパクトに、将来的な人口減少を見据えて交通的な公共的な要素も図った上で都市を再生させていく、という良くできているまちづくり計画があったかと思う。

そこに、福島駅周辺の賑わいというのはすごく大事だというところがあって、それを勉強していくと、なおさらこの辺の議論は価値があると思う。

そのようなことを振り返りながら、いざ駅周辺や自由通路もどうあるべきかということは、やはり東と西にどういう街ができて、改めて駅の中心となる部分をどういうふうに作っていくべきか、というのは時間軸の話もあったが、そういった需要は最終的には駅のあり方でそういうのを考えるべきだと思う。引き続き、時間軸を持って議論していくところだと思う。

あとは回遊性の中で本当に、1 階レベルでどういう動きなのか、2 階レベルでどういう動きなのか、階数的なものとかそういったものもあるんだろうなというふうに思いましたので、よろしくお願いします。

委員長

まずは東、そして西のまちがどうあるか。そして、その中で駅がどのような役割を果たしていくのか、どう回遊性を回復していくのか、といったような議論に進むというご指摘かと思う。

先ほど委員の方から、そもそもこの駅周辺市街地にこういった公共投資をする意味、そういうものも含めて何なのだろうとの問いかけがあった。駅東口だけではなくて西口のあり方も含めて、この場所をどのように考えるのか、それぞれご意見があるかと思う。また、実際に今は民間の所有地なので、

もちろん民間の考えもあるかと思う。しかし、民間活動にすべて任せて良いものだろうかどうか、というところも含めて、市民にとって、もう少しこういうものが考えられたらどうだろうか、といった視点がもしあればご発言いただきたい。

委　員

東西一体という言葉だが、東は東、西は西で性格的にどこの都市も違う顔があると思うので、それぞれしっかり計画を立てることが大切だと思う。そのうえで東西を行き来しやすくするために、自由通路でつなぐということは当然あるべきかと思う。

今回コンベンション案が採用された場合に、分かり得ない中で言うが、減額された予算 100 億くらいあるのであれば、前回の検討会で、ペデストリアンデッキの概算事業費が大体 30 億から 40 億くらいと説明があったので、東口再開発と同時に整備できないものかなと思っている。

論点の中の西口のまちづくりについて、イトーヨーカドー跡地の活用がどのような施設が良いのかということで、私個人的な意見としては、西口は居住区が良いのかなと思っている。マンション、公園、スーパーマーケット（ロピア）、スーパー銭湯あたりがあるといかがかなと思っている。

以前は極楽湯が西口にあり、隣接する伊達市にはカッパ王国もあったが、今は無くなってしまった。365 日昼夜問わず、人が集まる環境というのが街の賑わいに寄与するという意味では大切かなと思う。

集客力のあるロピアなどのスーパーマーケットやスーパー銭湯は、昼夜問わず 365 日集客してくれるので市民に望まれている施設ではないかなと思う。

公園など子供が遊ぶところがない、というは別の会議でも話し合っている中でも出る意見なので、子供が安全に遊べるというような公園も必要かなと思う。

劇場という案もあったが、劇場が福島市にいらないというわけではないが、もちろん必要だとは思うが、駅前というところに必要かなというと、ちょっとどうなのかなと思う。

やはり毎日使われる施設ではないということと、1 日のうちせいぜい２，３時間箱の中に入り、その前後で人が出て行くぐらいのことしかないので、賑わいに寄与しづらい箱物かなと思う。

委　員

駅前にどのような施設が入ったら良いか、若い人に聞いたら、24 時間居られる漫画喫茶が駅前にないので、そういうのが欲しいなと言っていた。仮に東口がコンベンション施設になるとすれば、西口には漫画喫茶のような 24 時間夜が明かせるような施設が欲しいという意見があった。

委員長

委員の方それぞれ西についてはどのようにお考えか、お話いただけたらと思う。

委　員

スーパー銭湯も本当にその通りだと思うし、24 時間手軽にワンコインでご飯が食べられるような、東口にあったなか卯さんのように手軽に食べられる、ビジネス出張に来られた方がパッと食べて出られるようなお店も欲しいな思う。

委 員

私は駅の西地区で生まれで育って、もともとあの地区は「西裏」と言われて非常に暗い地区だった。

イトーヨーカ堂は駐車場を２時間無料するなど、非常に社会貢献している。

やはり西口は住環境なので、当然、きっちりした中で、食のお店とか、物販のお店はぜひ欲しいと思っている。

委 員

私も同じく西口に 30 年くらい住んでいるが、イトーヨーカ堂のような日用品が買い物できる施設は必要だと考えている。なくなってしまうと、大型のスーパーは野田町にあるヨークタウンになるが、少し距離を感じる部分がある。

同時に、新幹線で出張から戻ってきたときに感じるが、西口は良い意味で静かで落ち着いた良い場所だなと思っている。騒がしくないのが西口の良さの一つと考えている。

どちらも兼ね備えるのは難しいことだが、日用品の買い物ができるようなお店は必要不可欠と考えている。

委 員

福島市は、吾妻山麓や信夫山、三名湯やわらじまつり、また桃をはじめとするフルーツなど誇れるものも多く、それらを中心として街のイメージを作ることはできると思う。しかし、福島市のシンボル的なランドマークとなる様々なインパクトある建物は残念ながらないと思う。

市民の皆様やイベント・大会で来訪する方々が集い活用できる場として、新しいこれからの福島の顔づくりというコンセプトのもと、ランドマークとするべき施設に公共の投資をしていくことは、理解しやすく価値のあることだと思う。

また、東口と西口とが通路等で同線が確保され、スムーズに行き来できれば、まちがいなく一体的な開発や活用の広がりが期待できると思う。

しかし、一体的なエリアとして考えるとしても西口が東口と同様の機能をもつ必要はなく、異なるイメージ・役割をもった開発になることに問題はなく、特に西口は企業の所有する場所でもあることから、その動向を注視し、丁寧に対応する必要があると思う。

委 員

公共交通ユーザーが、生鮮食品が買えるような場所が維持されると良いのではないかなと考える。

金谷川に住んでいる学生たちもそうだし、車を運転しなくなるかもしれない高齢者の方たちも考えると、交通の結節点になるところに生鮮食品が買える場所があること。

東口にもすぐそういう場所があるわけでもないし、そういう意味では東西の動線を良くしていくことによって、効果を高めていくというのが必要なのかなと思う。

その時に、原発事故の被害を受けた福島でもあるので、長期的に見てエネルギー効率の良い街ということも考えながら、何かまちづくり全体を考えていくと良いのかなと思っている。

委 員

私は前回の検討会のときに、西口に文化センターの機能を持つ施設を建てて欲しいとお話ししたが、

東口の方のコンベンション機能が充実してくれば、それはどうなのかなという考えも少し出てきた。
　ただ、東口の建物のコンベンション機能だけで、今福島で行われている文化的活動の会議や、展示会、展覧会等が、全部収まるかというと、そうではないと思っている。
　先ほどから出ている、居住区の買い物ができる場所、喫茶店、銭湯、食堂というのはもちろん大事。私は駅の東西の整備ができた時に、駅ビルをもう少し充実させていただけないかと思う。どこの駅に行っても駅ビルがあり、福島ならエスパルとかピボットがあるが、本当に小さくて中途半端で、欲しいものもあまり無いと感じている。
　仙台の規模までとはいかないと思うが、もう少しエスパル・ピボットが充実すれば、買い物も満足できるという考えを持っている。ぜひＪＲさんの計画に期待したい。

委　員
　西口の話もありましたが、福島駅を挟んで西と東、かなり状況が違う、他の駅を見ても珍しい駅だなと思いながらも、やはり風格ある都市という形で謳っている中で、西側の住宅の有り様というのも、良い雰囲気で存在してきているのだなと思う。その中で東と同じように、駅周辺を一体的に開発するものではないのだろうなというものもある。東側がターミナルという形で見るのであれば、西側は福島駅、駅という形なのかなと思う。
　駅の最近の改修とか改良とか、いろんな動きとすれば、やはり 50 年前にまちづくりと一緒になって駅を作ったような時、首都圏であれば私鉄沿線とか、そこも最近はいろいろな街と住宅がたくさんある中での駅というものがあって、そこをどういうふうに今後、持続可能なまちづくりをしていくかという形で動きが出ている。
　そういうところで何かうまく合致するようなものもあるのではないかなと思って今見ている。我が社もそういった意味で沿線に住宅があるような駅づくりというのは、いろんな流動がある。
　そういうところを参考にしていった中で、一緒に市に合った、地域に合ったまちづくりもあるのではないかと思う。

委　員
　西口のまちづくりについては、東口とは機能が違うもので良いのではないと私自身思っている。機能というか特色が違うからこそ、人の流れができると考えている。
　西口に欲しいものとしては、先ほど委員から発言があったように、公共交通を利用する人が生鮮食品を買えるところというのが、学生としては一番求めているところかなと思う。福大がある金谷川にも生協やコンビニはあるが、お弁当とかおにぎりとかが多い。そのため、金谷川に住む人は、電車に乗って福島駅に着いて、イトーヨーカドーで買って帰るという人も多い。そういう人が新鮮な野菜とかを買えるような場所が欲しいなと思っている。
　個人的に欲しいなと思ったものは、公園とか緑があったらいいなと思っている。

委員長
　私自身の意見は、少し皆さんとは浮いているかもしれない。
　私は福島生まれでも育ちでもないので、外からの目でしか見てないで、西側をどうするかと言われたら、少し皆さんと反対のことを考えてしまう。

皆さんむしろ東が大事で、そちらが表の顔であったし、これからもそうあって欲しいと思っている。なので、西側への投資はいかがなものだろうか、とブレーキをかけるようなご意見も多かったかと思う。西側は住宅地で良い、静かであって良い、というご意見もあった。

しかし、私としては、この駅の役割というのは、確かに経済的には福島駅の利用者は 4.5 万人で、東北では3番で、これを大きいと見るか小さいと見るか、実際経済的に考えると決して大きくはない。東京駅の近郊の駅でも利用者は十何万、20 万、30 万人はあるので、決して大きくはないが、それでも東北では3番目で、これだけの人が使っているということを考えると、もう少しこれを活用できないか。

駅というのは、中心市街地というものはそもそも何のために投資するのかと委員の方から先ほど問題提起があったが、経済的に考えると、やはり中心市街地でもこれまでの活力を考えると今むしろ伸び悩んでいる。それをどうしたらいいのかとか、皆頭を悩ませているところかと思う。

しかし、経済的な役割だけではなくて、人と人が会う場所、市内どの地区においても共通にあそこに集まろうといったとき、どこかの地区では具合が悪いけども中心なら集まれる、県内でも県庁所在地であれば集まれるというような、やはりシンボルとなる役割、人と人を結びつける役割というのが大きいかと思う。そういう中心市街地としての意味を最大限活かすべきだろうと思う。

福島の駅周辺というのは公共交通で直接首都圏と結びついている。首都圏と地方が結びつく、首都圏と福島の周辺地域が結びつく、そういった拠点として大事な役割を駅、西口、東口を問わず持っていると思う。

西口、東口両方とも、まさにこの場所（コラッセ）がそうであるように、福島市ではこれだけの投資をずっとしてきて、徐々にまちづくりを進めてきている。

もう一歩これを突き抜けて、西口にもある程度の拠点性、機能を総合するような動きがあってしかるべきではないかと都市デザインの観点から勝手に考えている。

私としては、もう少し東京との結びつき。コロナ禍ではいかにサテライト、オンラインとオンサイトをどう結びつけるかというところが問われた。ぜひそのような今からの働き方を念頭に置いて、西口にもそういう首都機能や、グローバルな企業の日本拠点のようなものを呼んでくるぐらいの力があってしかるべきではないか。

東側は、民間だけでできる再開発では限りがあるのではないかという観点もあり、公共側が多少そこに加わることによって、もう少し夢のある開発ができるのではないかという気もする。

西側は、先ほど委員の方からご指摘があったように、イトーヨーカドーさんも立派な駐車場を持っているように、自動車による利用者、車利用の交通圏の中にあり、文化の中にある。

自動車と公共交通の接点として、もう少し何か考えるところがあるのではないかという気がする。

非常に曖昧な、具体性を持ってないが、そのような期待感を若干西側には抱きたいと思っている。

この辺は、これ以上議論しても、今日は皆さんそれぞれのご意見を出していただいたので、ひとまず次回また課題として、事務局にもまとめて整理していただけたらと思う。

最後に、先ほど私パフォーマンスと言いましたが、具体的にこういう特性が大事だという点を最後一言ご発言したい方がいればお願いしたい。

委員長

これは前回、委員の方からのご提案・ご発言があって考えたこと、理解したことだが、中心市街地にある施設が、施設本来の役割、例えば劇場なら劇場、コンベンションならコンベンションの役割を果たすのは当然として、先ほどお話あったように普段でも立ち寄れるということが大事。しかも、立ち寄って、そこで活動している人を見る、或いはそこに立ち寄った人が見られる、見る見られる関係が生まれることが大事だと思う。

そのような工夫をすることによって賑わいが生まれる。それがマチニワのポイントでもあったかと思う。そういった特性は大事だと思うのです。

前回も発言したが、やはりナイトライフを豊かにするということ。観光化が進むに従って、この間福島の街なかを歩いたらリノベーションした宿に外国人が来ているのを見かけた。

抵抗感はあろうかと思うが、東北はまだまだそういったインバウンドの伸びというのは非常に低調。しかし、日本全国他の地域だと非常に進んでいる。特に京阪神から九州の方で進んでいる。

観光化が進むことを考えると、いかに外国人ともより広くグローバルな文化と我々が繋がることができるかというのもこれからの中心市街地の課題なのではないだろうか。

そうしたときに、このコンベンションホールも、夜の賑わいとか楽しみとか文化といったものにも貢献するものであって欲しいと思う。グローバルなもの、或いはツーリズム等々との活性化にもつなげていただけたらと思っている。

〇検討会締めのあいさつ

市　長

本日は活発なご議論をいただき感謝。

いろいろな議論が出ている中で、細かい点でお伝えした方が良いなということをお話しさせていただく。

まず１つ､今度イトーヨーカドーが無くなることで､特に福大の皆さんも非常に大変な思いをして、今日の新聞でも、自分たちで店を作ろうかという話がある。

金谷川に関しては、医大と福大があの地域に出ているにも関わらず、全然それに関わるまちづくりを福島市はやってこなかった。

今子供たちが非常に減る時代になってきて、福大の卒業生の皆さんが愛着を持てるような地域にしないと、今後福大の学生さんがものすごく減って、下手すると再編統合の対象になりかねないという危機感を私は持っている。

そういった面で、今街なかでの出店を応援しているが、今度は新年度予算から、金谷川地区も対象にして、お店を出すのを応援しようと思っている。学生、あるいは外から来た研究者といった人達も含めて担保できるような、そんなものを応援していきたい。

二つ目に、公園のお話があった。

世界のいろいろ賑わっている街、或いは憧れられている街を見ていると、やはり公園の規模が非常に大きい。

我々も、公園が非常に大事だなと思うのが、よくよく見ると、公園がメインで街が栄えているかというと、決してそうではない。むしろ、公園以外にちゃんと人が集まる仕掛け或いは人口集積があって、集まった人が行く場所があるからこそ多分うまくいっているのだろうと思う。

福島でも今の東口の議論の中で、実は若い方からも公園を作れないかと話があるが、あそこに作ってしまったら、雨が降った日はまず誰もいなくなってしまうし、冬もずっと全然来なくなって、駅前に巨大な闇を作ってしまうことになる。

そういう点ではやはり、全天候型である程度人が集まるような仕掛けをしていかないと、公園の機能というのは十分発揮できないのだろうと思う。

その点では、まずは人を集める或いは集積するまちづくりをしないと、公園の役割はなかなか機能発揮しないだろうと思っているので、集積をさせるということが、急がれるのかなと認識している。

ただ、子供の遊び場に関しては足りないと言われている。これはどちらかというと公園ではなくて、私もたくさん聞いたのは屋内の遊び場。

議会でも言われるのは、やはり冬場寒い、夏が猛烈に暑くなってきているので、屋内を求められている。

原発事故後に、市は市民会館のところに、屋内の遊び場を作った。外で遊べないから作ったのだが、除染等をして、外で遊べるようになって、利用者が減ったかというと、逆に増えていた。

今回、市民会館を取り壊すことになったので、道の駅のところに屋内の遊び場を作ったが、子供さん方の非常に大きなニーズとして、あるいは親子連れのニーズとしては、やはり屋内遊び場というのが非常に強いのかなと認識している。

先ほど、委員の方がご発言された「何のための駅前活性化か」ということだが、これは基本的には、まず「風格ある県都を目指すまちづくり構想」をなぜ作ったかと、そこに行き着くので、我々としては一定程度お示ししているつもりではあるが、改めて次回整理をさせていただければと思う。

何よりも福島市は県都であり、福島市だけではなくて、県全体の表玄関、顔。
やはりそういうところが、しっかりと人が集まる機能とか、或いはよその人への良いイメージを作っていかないと、作れるような街にしていかないと、人口減少とか相当どんどん進む。

例えば今我々が企業誘致をやってもなかなか振り向いてくれないとか、いろいろな波及効果はある。或いは下手すると、はっきりマイナスの効果が出てくるのはこの駅前というのはやはりシンボル性なのだろうと思う。

当然そこに人が集まることで、様々な活力が生まれてくる。人が元気になったり、出会いが生まれたり。郊外のスポットスポット、一部にはあっても、大きな塊として郊外ではなかなかできない規模でできるというのが駅前なのだろうなと思う。

西口に関して言えば、皆さんからいろんなご意見をいただいた。

これはあまり何が欲しいかとかずっと聞いていても、収束しない議論だと思う。むしろ、都市計画的なそういう民間デベロッパーの動きとかも踏まえながら、パターン化して、我々としては提示していきたいと思う。

肝心の東口。

今日いろいろ皆さんにご議論いただいたが、およそ皆さんの意見としては、Ｂ案をベースにしたらどうかということではなかったかと思う。

その点では、これ以上、このＡ案とＢ案を併記しての議論というのは、今回で終わらせていただいて、次回からは、Ｂ案をどのように肉付けできるかということで、私たちの案を、示された案なり、たたき台なり、そういった案を示させていただきたい。

そうなって来ると、かなり東口に対する議論というのがスピードアップする。そして、議論の期限

は切っていないと皆さんに申し上げたが、検討会での議論という形で、Ｂ案の方での方向性が出てくるのであれば、期限については一定程度目途を持って進めていきたい。

今回、令和６年度当初予算の中に、設計の見直しに関する予算を提出しているが、計画見直しの中身がある程度方向性が決まらないと使えない。

３月の段階では当初予算はもう間に合わないが、次の６月議会で議論をある程度して、合意というか一定の理解を得られれば、次の設計という段階に入る。先ほど申し上げた１年遅れが大体１年遅れで何とか済むという、ベースになってくるのではないかと思う。

そういう点では、東口に関する検討会としての一定の方向づけも５月を目途にさせていただければなと思う。

３月、４月の初めあたりは忙しいと思うが、その後に先ほどお話ししたように、Ｂ案の肉付けを我々としてコンセプトを含めて、お話をさせていただきたい。その上で、一定の方向性が５月中にもできればありがたいなと思っているので、できればそういう形にさせていただきたいなと思う。

当面、東を優先して議論をして、それが終わったら次に西としてこんなパターンがあるのではないかという具体的なたたき台をベースに議論をしていただければ、より中身が詰まった議論になるのではないかなと思う。